



Title	ACOSのファイル（最終回）
Author(s)	多喜, 正城
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1977, 27, p. 63-119
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65364
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ACOS の ファイル (最終回)

研究開発部 多 喜 正 城

IV. 蛇 足*)

1. TSS-FORTRAN サブシステムの RUN コマンド
2. CARDIN サブシステムの問答形式の一例 **)
3. SCAN サブシステムの問答形式の一例 **)
4. FDUMP サブシステムの一例 **)
5. バッチ系より TSS で実行する H* を作る。

付録 1 ユーザ機能とデータの流れ

2 FILSYS ディレクティブと利用者ディレクティブ

3 用語集

過去 3 回にわたり、ACOS のファイルについて浅く、色々述べて来ましたが今回でいよ
最終回を向え、特にこの小冊子では TSS を中心に述べましたので、その方面の蛇足をつけ
加えました。まず、FORTRAN サブシステムの実行に関わる RUN コマンドについてま
とめを、次に会話型リモートバッチである CARDIN サブシステムの問答形式の一例、それ
に伴ないファイルの有効利用と無駄な出力を避る為、一部分の出力結果を見ることにより、大
体の結果を予測したりする為の手段としての SCAN サブシステム、また、いずれの処理形
態で作成されたファイルであっても、それを端末より検査、保守を行なう為の FDUMP サ
ブシステムの使用方法、最後にバッチ系より TSS で実行する H* の作成方法を述べていま
す。尚、ACOS のファイルについては、もっと深く複雑であります、一応使うに事欠か
ない程度に述べたつもりであります、今後とも勉強を重ね、またの機会に譲りたいと思
います。

*) 前回の ACOS のファイル (その 3) で 4-1. データの登録 2. カードで T.S.S 用
にセンターから登録するの項で \$PRMFL OT, ……は \$PRMFL FT,
……の誤りでした。

**) 詳しくは「リモート処理管理タイムシェアリング会話型リモートバッチ説明書」参照

1. T.S.S. — FORTRANサブシステムのRUNコマンド

FORTRAN プログラムをコンパイルから実行まで行わせるのにRUNコマンドを用い、次の形をしている。

$$\left. \begin{array}{l} \text{RUN} \\ \text{RUNH} \end{array} \right\} - \text{t t t} _ \text{f s} = \text{f h} ; \text{f c} (\text{opt}) \text{u lib} \# \text{f e}$$

説明) RUNH …… 端末に日付, 時刻を先頭の行に表示する。

— t t t …… 実行のために許されるべきCPU — 時間

$$\text{f s} \quad \cdots \cdots \left\{ \begin{array}{l} \text{ソース・プログラムファイル} \\ \text{コムプレストデックファイル} \\ \text{オブジェクトプログラム・ファイル (C*)} \\ \text{実行形式プログラム・ファイル (H*)} \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{修飾} \\ \text{ファイル名} \end{array}$$

省略すれば, カレントファイルの内容がコンパイルされる。

また, ファイルが複数の場合 " ; " で区切る。

= f h …… コンパラより致命的エラーがなければ, T S S ロードが作り出した実行形式プログラム・ファイル (H*) が登録される直接編成ファイルの修飾ファイル名, この指定したファイル名がファイル・システムに存在しない時, 36 L リンクの直接編成ファイルがクイック・アクセス・ファイルとして f h の名で登録される (単一ファイルのみ指定)。省略すれば, テンポラリファイル上に作成されメモリーへロードの後, リリースされ実行に入る。

= ; f c …… コンパイラ結果 (C*) を入れる順編成ファイルの修飾ファイル名指定したファイル名がファイル・システムに存在しないとき, 3 ~ 20 L リンクの大きさでクイック・アクセス・ファイルとして f c の名で登録される (単一ファイルのみ指定) 省略すれば 48 L リンクのテンポラリファイルが作成され A F T に登録される。

= (opt) …… 1) プログラムに対する指示 (省略時, 下線部が標準)

$$\left. \begin{array}{l} \text{J I S} \\ \text{B C D} \end{array} \right\} \text{オブジェクトプログラムの形式}$$

2) ロータに対する指示(省略時, 下線部が標準)

=(ULIB)ulib…… 利用者ライブラリの入っている直接編成ファイルのファイル名(システム・サブルーチン・ライブラリより前に探す)

2. CARDIN サブシステムの間答形式の一例

(例中、下線部が端末よりの入力)

SYSTEM 撰択レベルで、CARD IN サブシステムを呼び出す。(すでにファイルに登録してある CARAND という名のファイルを呼ぶ)

- 65 -

READY

◆LIST RAND

```
10 PARAMETER I=1000
20 DIMENSION R(I)
30 READ(5,LIST) X,K,K1,M,N
40 M1=2**M
50 X1=X;K=2**K+1
60 WRITE(6,LIST)M1,K
70 DO 1 J=1,N
80 X1=K*X1+K1
90 R(J)=AMOD(X1,M1)
100 X1=R(J)
110 1 CONTINUE
120 WRITE(6,LIST) (R(J),J=1,N)
130 STOP" END OF DATA"
140 END
```

RAND の内容

- PARAMETER文を使うと DIME NSIONに変数(パラメータ)を用いられ、DIMENSIONの大きさを色々変えて使い時に便利です。
- READ文 WRITE文にLIST型を利用するとDATAを気にせず使える。

READY

◆RUN

```
SNUMB # 3202T
CARD FORMAT,DISPOSITION:3
N,J
◆JSTS 3202T
3202T -01 WAIT CORE
◆JSTS 3202T
3202T -02 EXECUTING
◆JSTS 3202T
3202T OUTPUT WAITING TSS ID=45
NORMAL TERMINATION
```

実行(SYSIN ファイルに登録し実行させる)

- 人力データ(JCL、プログラム等)の状態と実行結果をどうするか? 標準形式でJOUTサブシステムを用いる。
- JOB の状況を知る為のコマンド アクティビティ01はコア待。

アクティビティ02は実行中

端末番号45番で出力待

正常終了

◆JOUT 3202T

```
FUNCTION?LIST
ACTIVITY 1
REPORT CODES
$$
74
```

JOUTサブシステムの呼び出し

- FUNCTIONモードによるLIST 指定
- LISTによる出力ACTIVITY 1 の内容の入ったコードを示す。

FUNCTION?PRINT \$\$

コード\$\$の内容をプリントする。
(JCLに関するリポート)

```
$$ 3202T ENTERED HANDAI AT 16.012 FROM TSS/S 0-12-06
0001 $ SNUMB 3202T
0002 $ COMMENT TSS CARDIN
0003 $$ USERID $*****
0004 $* CPROD J/A,, , $**** 00000010
0005$ $ IDENT ,NRPT 000001000000000000 0926771600
0006$ $$ USERID $****
0007$ $ LIMITS 20,40K,-2K,6000
0008$ $ LOWLOAD
0009$ $ OPTION FORTRAN,RELNEM
0010 A$ FORTRAN NFORM 00000020
0011 $* CPROD 65/A 00000040
0012$ $ OPTION NOMAP
0013#A$ EXECUTE
0014$ $ LIMITS 1,16K,-2K,1500
0015$ $$ PRMFL LM,R,R,LIB/MLIB
0016$ $$ PRMFL LC,R,R,LIB/CLIB
0017 $ ENDJOB 00000060
TOTAL CARD COUNT THIS JOB = 000032
```

```

♦ ACTY-01 $CARD #0010 FORTY 09/26/77 SW=210200000000
♦ NORMAL TERMINATION AT 005372 I=4060 SW=210200000000
*** ACT. COST $ 21.35 USED % ***
♦ ACTY-02 $CARD #0013# GELOAD 09/26/77 SW=000000000000
♦ NORMAL TERMINATION AT 014313 I=5000 SW=000000000000
*** ACT. COST $ 7.00 USED % ***

```

END OF \$\$

FUNCTION?PRINT 74

コード74の内容をプリントする
(ソース・プログラムに関するリポ
ート)

```

3202T 01 09-26-77 16.025 LABEL ..... PAGE 1
ACDS-6 R3.3 FORTRAN (07-01-77) OPTIONS: NDUMP,NXREF,NCOMDF,NDECK,NLISTOU,
LSTIN,NDEBUG,NOMAP,NFORM,NLND,JIS,NOPTZ
1 PARAMETER I=1000 00000010
2 DIMENSION R(I) 00000020
3 READ(5,LIST) X,K,K1,M,N 00000030
4 M1=2**M 00000040
5 X1=X;K=2**K+1 00000050
6 WRITE(6,LIST)M1,K 00000060
7 DO 1 J=1,N 00000070
8 X1=K*X1+K1 00000080
9 R(J)=AMOD(X1,M1) 00000090
10 X1=R(J) 00000100
11 1 CONTINUE 00000110
12 WRITE(6,LIST)(R(J),J=1,N) 00000120
13 STOP" END OF DATA" 00000130
14 END 00000140

```

THERE WERE NO DIAGNOSTICS IN ABOVE COMPILATION
29K WORDS WERE USED FOR THIS COMPILATION

END OF 74

FUNCTION?ACTI 02

FUNCTION?LIST

ACTIVITY 02

REPORT CODES

\$\$

74

06

ACTIVITY 2 に関する情報を得る。
ACTIVITY 2 の内容を知る為の
LISTコマンド

LIST による出力・ACTIVITY
2 の内容の入ったコードを示す

FUNCTION?PRINT \$\$

コード\$\$の内容のプリント

```

$$ 3202T ENTERED HANDAI AT 16.012 FROM TSS/S 0-12-06
0001 $ SNUMB 3202T
0002 $ COMMENT TSS CARDIN
0003 $$ USERID $*****
0004 $* CPROC J/A., , $**** 00000010
0005# $ IDENT ,.NFT 00000100000000000000 0926771600
0006# $$ USERID $****
0007# $ LIMITS 20.40K,-2K,6000
0008# $ LDWLOAD
0009# $ OPTION FORTRAN,RELMEM
0010 A$ FORTRAN NFORM 00000020
0011 $* CPROC GG/A 00000040
0012# $ OPTION NOMAP

```

```

0013#A$ EXECUTE
0014# $ LIMITS 1.16K,-2K,1500
0015# $$ PRMFL LM,R,R,LIB/MLIB
0016# $$ PRMFL LC,R,R,LIB/CLIB
0017 $ ENDJOB 00000060
TOTAL CARD COUNT THIS JOB = 000032
* ACTY-01 $CARD #0010 FORTY 09/26/77 SW=210200000000
* NORMAL TERMINATION AT 005372 I=4060 SW=210200000000
*** ACT. COST $ 21.35 USED % ***
* ACTY-02 $CARD #0013# GELOAD 09/26/77 SW=000000000000
* NORMAL TERMINATION AT 014313 I=5000 SW=000000000000
*** ACT. COST $ 7.00 USED % ***

```

END OF \$\$

FUNCTION?PRINT 74

コード74の内容をプリントする
(ロードマップに関するレポート)

```

3202T 02 09-26-77 16.026 PAGE 1
ORIGIN DATE MODULE ENTRY LOCATION ENTRY LOCATION ENTRY
LOCATION ENTRY LOCATION
SUBPROGRAMS INCLUDED IN DECK.
$ LOWLOAD
$ OPTION FORTTRAN,PELMEH
000102 09/26/77 ..... 000102
.DATA. 000250
$ OPTION NOMAP

SUBPROGRAMS OBTAINED FROM SYSTEM LIBRARY

RANGE SIZE
ALLOCATED CORE 0000000 THRU 037777 040000
RELOCATABLE 000100 THRU 026143 026044
$ PRMFL LM,R,R,LIB/MLIB
$ PRMFL LC,R,R,LIB/CLIB

FCB AND BUFFER SPACE
AVAILABLE 026144 THRU 037777 011634
FILE CTRL BLKS 026144 THRU 026274 000131
MAXIMUM BUFFER SPACE REQUIRED 001202
12K. IS THE MINIMUM MEMORY NEEDED TO LOAD THIS ACTIVITY WITH ALL FILES
OPEN 021077 P3.2
001442 LOCATIONS REQUIRED FOR LOAD TABLE
EXECUTION PROGRAM ENTERED AT 000102 THROUGH .FSETU

```

END OF 74

FUNCTION?PRIN 06

コード06の内容をプリントする
(WRITE文のfcが6の時である)

```

17179869184 129
0.21930000E+04 0.28289700E+06 0.36493713E+06 0.47076890E+10 0.59964535
+10 0.44843827E+09 0.63039296E+10 0.63980585E+10
0.71582515E+09 0.64420387E+10 0.63970099E+10 0.58055885E+09 0.61726147
+10 0.59933082E+10 0.42639360E+08 0.55004775E+10
0.51869532E+10 0.16281936E+11 0.44256952E+10 0.39790019E+10 0.15075033
+11 0.33540506E+10 0.31757927E+10 0.14540259E+11
0.30877123E+10 0.31778898E+10 0.14810792E+11 0.36266803E+10 0.39852933
+10 0.15886631E+11 0.49709548E+10 0.55980032E+10

```

BRKキー

FUNCTION? ②

PLEASE DIRECT, RELEASE, OR HOLD BEFORE EXIT

FUNCTION? DIRECT ONL

*B'YE

CARDIN サブシステムで行った JOB の結果等をセンターのラインプリンターに出力させ SYCOUT ファイルより消す。

♦♦USED RESOURCE.....CPU=0.61SEC CON=8.1MIN LINE=PRIVATE T-ID=45

♦♦COST: \23.05

♦♦DN AT 15.985 - OFF AT 16.120 DN 09/26/77

\$ N1041 16:07:06 DIS - CP

② \$ SELECTA 制御文について

T.S.S. で作成されたファイルは \$ SELECTA 制御文により パーマネントファイルより引いてきて入力ファイルとすることができる。形式は次のとおり

カラム No 1 8 16

\$ SELECTA fildescr

- fildescr 修飾ファイル名のみでコメントの記入をしてはいない。
- \$ SELECTA 制御文自身は CARDIN によって入力ストリームより取り除かれてバッチにはわたされない。CARDIN はカレントファイル上でこのカードを見つけると、カレントファイルからの入力をや 'descr のファイルの処理をはじめ、fildescr のファイル上に EOF を見つけると、前のカレントファイルに戻る。又、fildescr で指定されるファイル上の \$ ENDJOB 制御文はとり除かれる。
- ネスト使用 (\$ SELECTA によって指定ファイルの中でさらに \$ SELECTA を使うこと) は 10 レベルまで。
- fildescr のファイルは T.S.S. で作成されたファイルでなければならない。

○ RUN, PRINT コマンド 問 答 形 式 一 覧

コ マ ン ド 形 式		RUN [filedescr] PRINT [filedescr ₁ (i,j) ₁ ;filedescr ₂ (i,j) ₂ ;..... 注(4)		
コ マ ン ド / サ ブ シ ス テ ム	質 問	応 答	説 明	
RUN PRINT	CARD FORMOT	ASIS (A)	ファイル上の形式のまま編集しない。	
		STRIP (S)	ライン番号除去	
		MOVE (M)	ライン番号を 73-80 桁に移す。	
		NORM 注(1) (N)	NOVE および標準タブセット (; , 8 , 16 , 32 , 73)	
	DISPOSITION (PRINT の場 合はなし) 注(2)	WAIT (W)	ジョブ終了メッセージ待ち合わせ, 終了後ビルドモード	
		TALK (T)	投入ジョブとのダイレクトアクセス 接続	
		URGD (XX) (U)	アージェンシーを XX にする	
		JOUT (J)	JOUT サブシステム使用のためフ ァイルセーブ	
		ROUT (R)	出力ファイルを端末識別名 XX の端 末に向ける	
		キャリッジリタン	CARD FORMAT 応答は必須 DISPOSITION 無指定は, ジョブ投入後, 即時にビルドモード に戻る	
	TAB CHARACTERS AND SETTINGS? (NORM のときは なし)	t ₁ , s ₁₁ , s ₁₂ , ;...s ₁ s ₁ ; tm, sm ₂ , sm ₂ ... smnm	タブ文字 (t) およびタブ位置 (s) をセットする 注 (3)	
		NORM (N)	; , 8 , 16 , 32 , 73 にセット	
		キャリッジリタン	タブ不用	

注(1) NORM (タブ文字, カード終了記号) という形式により, 標準タブセ
ットにおけるタブ文字の変更, およびカード終了記号の使用により, 一
行を複数枚のカードに分割することができる。

(2) CARD FORMAT 応答の後に DISPOSITION 応答をすること。
DISPOSITION は組み合わせ指定可, また, CARD FORMAT
応答を含めて, キーワードはカンマで区切って入力する。

(3) タブ文字は最大 7 個, タブ位置は合計 35 個まで指定可。

(4) 処理終了後は CARDIN ビルドモードに戻る。

カレントファイルを扱う場合は, コマンドのアーギュメントは指定しな
い。

。 JOUT サブシステム 問 答 形 式 一 覧

コマンド形式		JOUT snumb	
コマンド/ サブシステム	質 問	応 答	説 明
JOUT	SNUMB? 注(1)	snumb キャリッジリタン	処理すべきジョブのSNUMB 元のレベルに戻る
	FUNCTION? 注(2)	ACTIVITY n	処理すべきアクティビティ n を指定
		DIRECT{ id } ONL	端末識別名 id のリモートプリンタ またはセンタ (ONL) に出力
		EPRINT{ \$\$ } rc	レポートコード rc (\$\$ は J * フ ァイルを指定) 出力
		LIST	現在のアクティビティに関するレ ポートコードを出力
		PRINT{ \$\$ } rc	EPRINT と類示、連続するブラン クはつめる。
		HOLD	後でまた使用するため、出力をその ままシステム上 (SYSOUT ファイ ル上) へ残しておく
		RELEASE	出力をシステムから消す
		SCAN rc 注(3)	レポートコード rc をスキャンする
		キャリッジリタン	

注(1) JOUT snumb と入力した場合には、SNUMB? という質問はさ
れない。

(2) 1つの処理が終了すること、FUNCTION? レベルに戻る、
繰り返し処理ができる。

(3) SCANを入力すると、SCANサブシステムとほぼ同一の機能が使用
できる。この場合、FORM? から質問がはじまる。なお、BATCH.
REM.BYE は使用不可。

また、FORM? に対してDUMP (コアダンプ) 形式が指定できる。
DONEに対してはFUNCTION?レベルに戻る。

3 SCAN サブシステムによる問答形式の一例

ここではCARDIN サブシステムにより実行処理を行い、JOUTサブシステム指定によるSYSOUT ファイルの内容をSCANしております。尚、前出のCARDIN サブシステムの問答形式と見比べて見て下さい。

(下線の部分は端末よりの入力を示す)

ACOS-6 TSS(R3.2) ON 09/12/77 AT 17.356 CHANNEL 0404

USER ID - _____
PASSWORD - _____
~~XXXXXXXXXXXX~~
SYSTEM ?CARD O CARAND
READY
*LIST

0010\$:JOB: \$
0020\$:FORTRAN:INFORM
0030\$:SELECTA:RAND
0040\$:GO
0050#:17,7,0,34,1000
0060\$:ENDJOB

READY

*RUN
SNUMB # 3473T
CARD FORMAT,DISPOSITION ?
N,J
*JSTS 3473T
3473T -01 WAIT CORE
*JSTS 3473T
3473T -01 WAIT CORE
*JSTS 3473T
3473T -01 WAIT CORE
*JSTS 3473T
3473T -01 WAIT CORE
*JSTS 3473T
3473T -01 WAIT CORE
*JSTS 3473T
3473T -02 EXECUTING
*JSTS 3473T
3473T -02 EXECUTING
*JSTS 3473T
3473T OUTPUT WAITING ID=44.
NORMAL TERMINATION
*JOUT 3473T
FUNCTION?LIST
ACTIVITY 1
REPORT CODES
\$\$
74

FUNCTION?SCAN.74	_____	リポートコード74の内容をSCANする
FORM?FORT	_____	FORTTRAN コンパイルリストについて行
000 ERRORS	_____	う。コンパイルエラーの数が最初に出力される
		エラーなし
EDIT? (C)	_____	(C) キー入力により連続する複数個の空白もそ
?PRINT	_____	のまま出力する
#0001		現在のポインタの行をプリントする。
?SPACE 7	_____	7行ポインタを進める。
?PRINT	_____	現在のポインタの行をプリントする
5	X1=X+K=2**K+1	
	00000050	#0008
?SPACE 2	_____	2行ポインタを進める。
?PRINT 10	_____	現在の行より10行分プリントする。
7	DO 1 J=1,N	
	00000070	#0010
8	X1=K*X1+K1	
	00000080	#0011
9	R(J)=AMOD(X1,M1)	
	00000090	#0012
10	X1=R(J)	
	00000100	#0013
11	1 CONTINUE	
	00000110	#0014
12	WRITE(6,LIST)(R(J),J=1,N)	
	00000120	#0015
13	STOP" END OF DATA"	
	00000130	#0016
14	END	
	00000140	#0017
#0018		
#0019		
? (C)	_____	1つ前のレベルに質問を戻す
FORM? (C)	_____	1つ前のレベルに質問を戻す

ここで同じACTIVITY 1のリポートコード74をJOUTサブシステムによりプリントして見ると次の様になる。

FUNCTION?PRINT 74	_____	JOUTサブシステムによるプリントコマンド
-------------------	-------	-----------------------

```

3473T 01 09-12-77 17.413 LABEL ..... PAGE 1
ACOS-6 R3.3 FORTRAN (0/-01-77) OPTIONS: NDUMP,NXREF,NCOMDR,NDECK,NLSTOU,
LSTIN,NDEBUG,NOMAP,NFORM,NLNO,JIS,NOPTZ
1 PARAMETER I=1000 00000010
2 DIMENSION R(I) 00000020
3 READ(5,LIST) X,K,K1,M,N 00000030
4 M1=2**M 00000040
5 X1=X+K=2**K+1 00000050
6 WRITE(6,LIST)M1,K 00000060
7 DO 1 J=1,N 00000070
8 X1=K*X1+K1 00000080
9 R(J)=AMOD(X1,M1) 00000090
10 X1=R(J) 00000100
11 1 CONTINUE 00000110
12 WRITE(6,LIST)(R(J),J=1,N) 00000120
13 STOP" END OF DATA" 00000130
14 END 00000140

```

THERE WERE NO DIAGNOSTICS IN ABOVE COMPILATION
29K WORDS WERE USED FOR THIS COMPILATION

END OF 74

```

FUNCTION?ACTI 02          _____ ACTIVITY 2に進める。
FUNCTION?SCAN 06          _____ リポートコード06をSCANをする。
FORM?USER                 _____ ユーザ作成出力
CODE? ㊦                  _____ コード指定せず
EDIT? ㊦
?PRINT
    17179869184          129 #0001
?SPACE 120
?PRINT
    0.16792617E+11  0.15840707E+10  0.15366554E+11  0.66004583E+10  0.
96455229E+10  0.73218785E+10  0.16809394E+11  0.37483315E+10 #0121
?SPACE 5
?PRINT
    0.14041154E+11  0.74225418E+10  0.12615090E+11  0.12438929E+11  0.
68940595E+10  0.13160350E+11  0.14057931E+11  0.95868026E+10 #0126
?PRINT ALL                _____ 現在のポインタの行より残りすべてをプリントする。
    0.14041154E+11  0.74225418E+10  0.12615090E+11  0.12438929E+11  0.
68940595E+10  0.13160350E+11  0.14057931E+11  0.95868026E+10 #0126
    STOP      END OF DATA      #0127
EOF

?DONE
FUNCTION?DIRECT ONL        _____ SCANをやめる。JOUTサブシステムのFUN-
                           _____ CTIONレベルに戻る。
*BYE                       _____ SYSOUTの内容をセンターのラインプリン
                           _____ タに出力する

```

**USED RESOURCE.....CPU=0.62SEC CON=9.7MIN LINE=PRIVATE T-ID=44
**COST: \23.10
**ON AT 17.356 - OFF AT 17.519 ON 09/12/77

\$ N1041 17:30:39 DIS - CP

o SCANする出力のパーマネントファイルへの保存

```

カラムNo    1      8      16

$          JOB

$          FORTRAN

           ↘

$          PRMFL    P*,R/W,S, 課題番号/ファイル名
           ↑
$          EXECUTE                                ソース・リストを受けとるファイル

           ↘

$          PRMFL    P*,R/W,S, 課題番号/ファイル名
           ↑
$          ENDJOB                                ロード・マップを受けとるファイル

```

注) あらかじめパーマネントファイルを作成しておく必要がある。

○ SCANサブシステム問答形式一覧

コマンド形式 SCAN filedescr (パーミッション, 代替名可)			
コマンド/ サブシステム	質 問	応 答	説 明
SCAN	FILE? 注(6)	<u>filedesc</u>	スキャンしたいファイルを指定
		<u>filedesc;n</u>	同上. nはファイル内のセグメントを指定 注(3)
		キャリッジリタン	サブシステム終了
	FORM?	GMAP	アセンブリリスト形式ファイル
		FORT	FORTRANコンパイルリスト形式ファイル
		COBOL	COBOLコンパイルリスト形式ファイル
		LOAD	ローダ出力リスト形式ファイル
		USER 注(1)	ユーザ自由形式ファイル
		キャリッジリタン	FILE?レベルに戻る。
	EDIT?	YES (Y)	連続するブランクをつめる。
		NO (N)	編集しない。
		キャリッジリタン	応答なしとみなす。
		FIND/literal string/ [;n] (F)注(4)	カレント行から literal string と一致する文字列をもつ n 番目の行 をさがし, そこにポインタを位置づ ける。n 指定なしは 1
		PRINT{ $\frac{n}{ALL}$ } (P)注(5)	カレント行から n 行をプリントする。 n 指定なしは 1。 ALL はカレント行以降すべて
		LIST[n]	PRINT と同一
		BATCH 注(2)	BMC によりモートバッチ端末また はセンタにファイル全部をプリント する (出力先に対する質問がなされ る)。
		SPACE (S)	ポインタを n 行進める。n 指定なし は 1
		BACK[n] (B)	ポインタを n 行戻す。n 指定なしは ファイルの 1 行目に戻る。
		LINE <u>n</u>	ポインタをライン番号 n に位置づ ける
		ERROR[n] (E)	FORM? で指定した形式に従って, n 個のコンパイル (アセンブル) エ ラー等をプリントする。n 指定なし はすべて。
		UNDE (U)	アセンブラの場合の未定義シンボル をプリントする。

コマンド/ サブシステム	質 問	応 答	説 明
S C A N		FLAG X	アセンブラの場合のフラッグX (A, U, M, …)のエラーをプリントする。
		LOAD	簡略化したロードマップをプリントする
		CODE [abcde] (C)	ラインコードを <u>abcde</u> に変更する。 <u>abcde</u> 指定なしはラインコードの 取り消し。
		EDIT	EDIT? レベルに戻る。
		DONE	SCANサブシステム終了
		BYE	タイムシェアリングセッション終了
		REM <u>text</u>	プリンタログ上に覚書きとして <u>text</u> を書き込む。
		キャリッジリタン	FORM? レベルに戻る。

- 注 (1) FORM? に対して、USERと答えた場合、CODE? という質問がなされる。これに対して、ユーザは1～5文字のラインコードを指定する。ラインコードは、各ラインの3～6桁目の左詰め文字と対応し、これを指定すると、そのコードと一致する行のみがFINDおよびPRINT (LIST) の処理対象となる。CODE? に対して、キャリッジリタンのみを返すと、コードは指定しなかったものとみなす。
- (2) ?に対してBATCHと答えた場合、STATION CODE? という質問がなされる。これに対して、出力すべき端末の識別名を指定する。キャリッジリタンのみを返すと、センタに出力される。システムは、さらに\$ IDENT?と質問してくる。これに対しては、バッチのためのアカウント番号と識別名を返答する。
- (3) ファイル内が、エンドオブファイルマークによって分割されている場合がある。このとき、個々の分割部分をセグメントという。
- (4) FINDのliteral stringの形式は、テキストエディタと同一。
- (5) PRINTのアーギュメントとしては、テキストエディタと同一形式が使用可。
- (6) 1つの機能が終了するごとに、?レベルに戻るので、繰り返し処理ができる。
- (7) SCAN filedescr と指定した場合、FILE? という質問はされない。

4 FDUMP サブシステムの一例

TSSで実行処理する時、その結果をあらかじめパーマネントファイルにファイル名とその大きさを登録してあるファイルに書き出しを行っている途中、そのファイル・スペースを使い果した場合、その内容をLISTコマンドにより端末に出力する事はできても、BPRINTコマンドによりセンターのラインプリンターへ出力することはできない。これは、そのファイルの終りにEOFがない為である。そこで、これをBPRINTコマンドでセンター出力する為には、FDUMPサブシステムにより、そのファイルをパッチしてやれば、センター出力も可能である。

ここでは、そのパッチのやり方を述べてみました。

(使用例中、下線の部分は端末よりの入力を添す。)

○ F D U M P サブシステム問答形式一覧

コマンド形式		FDUMP		
コマンド/ サブシステム	質 問	応 答	説 明	
FDUMP	FILE NAME--	filedescr	DUMPすべきファイル名(そのファイルの定義に従って、順編成または直接編成ファイルとして扱われる)	
		filedescr; L R	DUMPすべきファイル名、ファイル形式(直接編成(R)または順編成(L))	
		キャリッジリタン	元のレベルに戻る	
	BLOCK TO BE READ--	D	コアに読み込むべきブロックのシリアル番号	
		キャリッジリタン	FJLE NAME--レベルに戻る。	
	FUNCTION? (?) 注(1)	S loc 注(2)	ioc で指定した位置の内容を出力	
		S loc-loc	loc からlocまでの内容を出力	
		S loc,n	loc からnワード分の内容を出力	
		P loc data 注(3)	loc からdataでパッチ	
		W	ログ上の内容をファイルに書き戻す	
		C filedescr	ファイル全体をfiledescrファイルにコピー	
		D	SYSTEM?またはCARDINビルドモードレベルに戻る	
		キャリッジリタン	BLOCK TO BE READ -- レベルに戻る。	

注(1) 1つの機能が終了するごとに、FUNCTION?レベルに戻る
るので、繰り返し処理ができる。ただし、繰り返し処理の場
合?のみが表示される。

(2) loc は8進数形式

(3) data は8進数形式

5 バッチ系より T.S.S. で実行する H* (実行形式プログラム) を作る

- 一般に バッチと T.S.S. では入出力文に対して使用される F.R.C ルーチンが異なるため、バッチ系 H* と T.S.S. - H* は、それぞれ自分自身の系でしか実行できない。そこで次の J.C.L. によりバッチ系で、T.S.S. で実行する H* を作ることができる。

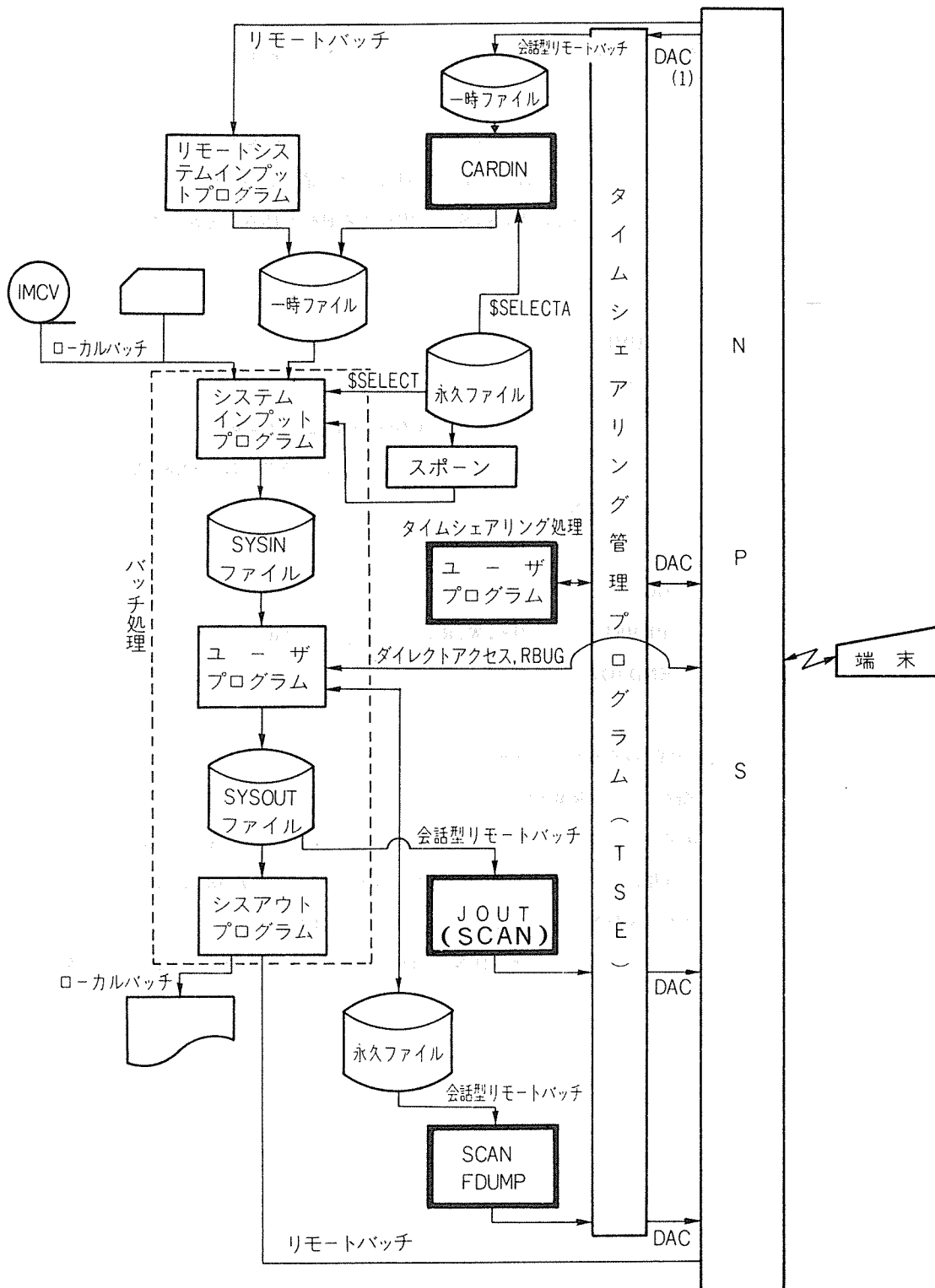
```
1           8           16
$          SNUMB
$          JOB
$          OPTION      NOFCB, NOGO, SAVE / プログラム名
$          USE          GTLIT., .TSGF., .FTSU., FXEMA
$          FORTRAN
          ソース・プログラム
$          GO
$          PRMFL      H*, W, R,  / fn
$          ENDJOB
```

- 説明
- \$OPTION と \$ USE はこの通り使う、ただし、SAVE のプログラム名は \$ PRMFL で指定したファイル名 fn のファイルに登録するプログラム名である。この場合、プログラム名とファイル名を一致させるのが無難のようです。なぜなら、T.S.S. で使う時 FORTRAN サブシステムの RUN コマンドを使用するとき次の通り

* RUN fn とする為、fn はファイル名である。

以上で「ACOS ファイル」を終了します。

付録 1.



注(1) DAC : ダイレクトプログラムアクセス

(2) 太線の四角はタイムシェアリング処理

FILSYS ディレクティブ (FMS 説明書より)

1. FILSYS アクティビティ

カタログサービスはFILSYS アクティビディに対して入力されるディレクティブや、TSサブシステム ACCESS コマンドを用いて要求する。この説明書では、ディレクティブについて記述する。ACCESS コマンドについては、「タイムシェアリングシステム説明書」を参照されたい。FILSYS アクティビティは、\$ FILSYS 文で呼び出す。

2種類のディレクティブがあり、一つは任意の利用者が使用可能なもの、他は特権利用者のみが使用可能なものである。

(1) 利用者ディレクティブ

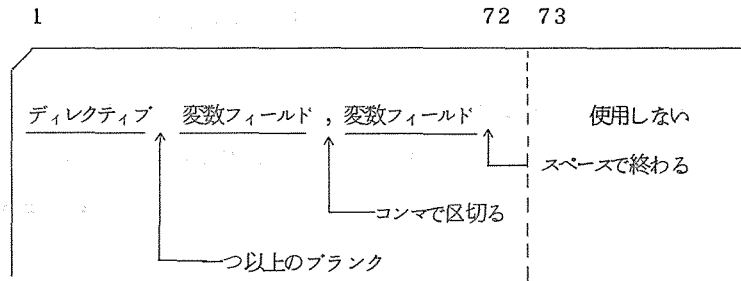
- (a) ファイルやカタログの作成・変更・抹消・リスト・ロック・退避・復元を行う。
- (b) 利用者を識別するために\$ USERID 文が必要。
- (c) 復元利用者を同一アクティビディで行うときは、各利用者を識別するためにUSERID ディレクティブが使用可能。

(2) 特権ディレクティブ

- (a) システムマスタカタログおよびバックマスタカタログの作成・変更・抹消・リストを行う。
- (b) 全利用者または一部の利用者のファイルやカタログの全退避・全復元・
- (c) \$ PRIVILEGE文が必要で、ジョブ実行前にオペレータの許可が要求される。

- (3) リムーバブルストラクチャードバック上に、PMC、カタログ、ファイルを作成・削除・変更等の処理を行う場合には、そのリムーバブルバックはあらかじめ装てんされていなければならない。装てんされていない場合は、FILSYSアクティビティはアボートする。もしリムーバブルバックがあらかじめ装てんされているかどうか不明の場合にはFILSYSアクティビティ中に\$ 411PK (または\$ 450PK)文を挿入して、操作員に対してリムーバブルバックの装てんを要求する。

2. ディレクティブ形式



- 規則 (1) ディレクティブは任意のカラムから始められる。
- (2) 変数フィールドはディレクティブの後に一つ以上のブランクをあけて書く。変数フィールド間はコンマで区切る。
- (3) 変数フィールドは複数カードに渡ってもよいが、1 カードは 1 ～ 72 カラムが有効であり、次のカードに続く場合は、コンマまたはスラッシュで終わらせる。
- (4) ディレクティブの最後はスペースで終わらせる。
- (5) 変数フィールドは、ファイル名、カタログ名、オプションの内必要なものを書く。ファイル名やカタログ名が必要なときは、その名前をディレクティブの直後に書く。オプションは任意の順序に書いてよい。

例 (1) ファイル作成ディレクティブ

FCREAT 修飾ファイル名, SIZE / 数, 数 / , MODE /
コード /

(2) システムマスタカタログ作成ディレクティブ

CRMAST 利用者名, PASSWORD / パスワード / , SIZE
/ 数 /

3. ディレクティブの説明

- 形式は、一般的な COBOL 用法を用いて記述している。
- 大カッコ ({ }) は選択項目で、その内の一つを必ず指定する。
- カギカッコ ([]) はオプションで、指定してもしなくてもよい。
- 下線は必須項目。
- 反復記号 (. . .) は繰り返し。
- 日本語は必要なもので置き換える。

- 英大文字はそのままに書く。

項目の形式や選択についてはその都度説明するが、修飾名、パスワードパーミッションの三つについては以下に説明する。

4. 修 飾 名

修飾ファイル名は、ファイルが属している一つ以上のカタログの名前に続いてファイル名を書いたもので、各名前の間はスラッシュ（／）で区切る。パスワードが必要なときは、それぞれ対応する名前の後に\$で区切って続ける。最高位のカタログである利用者マスタカタログ（UMC）を、常に最初に書く。この名前は、UMCがカタログ化されている利用者の名前である。

利用者〔\$UMCパスワード〕〔／カタログ名〔\$カタログパスワード〕・・・〕

／ファイル名〔\$ファイルパスワード〕

修飾カタログ名は、ファイル名と同様に書かれ、カタログ名が、ファイル名の代りに最後になっているものである。

個々の名前は1～12字で、各文字は、英数字、ピリオド、ハイフンが使える。

既存の利用者の修飾カタログ名または修飾ファイル名が必要なとき、UMC名を省略することが出来る。

変数フィールドがスラッシュで始まるときは、\$ USERID文またはUSERID ディレクティブの利用者名がカタログまたはファイル名を修飾するUMC名として用いられる。

〔／カタログ名〔\$パスワード〕〕・・・／ファイル名〔\$パスワード〕

備考 (1) 利用者マスタカタログ名（UMC名）の省略形式は、

FILSYS アクティビティのディレクティブとしてのみ利用可能である。

\$ PRMFL文等で修飾ファイル名を必要とする場合は、従来どうりUMC名以下を書かなければならない。

(2) UMC名にパスワードが付いているときも省略形式は利用不可。

(3) 作成しようとするファイルやカタログにパスワードを付けるとき

は、パスワードオプションによりパスワードを指定する。

例 (1) 一般形式

USERA/CAT1\$PS1/CAT2

(2) 省略形式

/CAT1\$PS1/CAT2

(3) パスワードの指定

/CAT1\$PS1/CAT2, PASSWORD/PS2/

5. パスワード

オプションPASSWORD/.../を用いてパスワードを指定するときは、スラッシュで囲んだリストの中には、単一の名前か、二つの時刻を添字としても一つ一つ以上の名前を書く。この時刻は、それぞれのパスワードが有効な時間の始めと終わりの時刻である。パスワードとの間はコロン(:)で区切り、時刻の間は、アスタリスク(*)で区切る。

PASSWORD/名前/

または

PASSWORD/名前:時刻*時刻,.../

修飾名中にパスワードを書く場合、当然その時刻に有効なパスワードのみを書く。

6. パーミッション

一般パーミッションを指定するときは、許可操作は任意の順序でその全体または短縮形を書く。それぞれは、コンマで区切る。

許可操作,...,許可操作

特定パーミッションを指定するときは、許可操作の次にスラッシュ(/)で囲んだ許可を与えるべき利用者のリストを書く。各利用者名は、コンマで区切る。許可操作の他に、EXCLUDE指定が可能である。これは、これに続いて指定される利用者が、いかなるパーミッションももたないことを示すものである。

$\left\{ \begin{array}{l} \text{EXCLUDE} \\ \text{許可操作} \end{array} \right\} / \text{利用者名}, \dots /$

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{EXCLUDE} \\ \text{許可操作} \end{array} \right\} / \text{利用者名, } \dots / , \dots$$

7. 特殊ディレクティブ

- (1) 行(カード)と行の間に、コメントをはさむことができる。コメント行は第1カラムのアスタリスク(*)で区別される。
- (2) ディレクティブ処理中にエラーが発見されると、エラーが報告され、残りのディレクティブについての構文チェックのみが行われる。
ただし、LISTディレクティブについては、エラーに先立って処理されたディレクティブの効果を見定めることができるように、処理が行われる。
- (3) パスワードは、特に要求がない限り、ディレクティブリスト中には出力されない、パスワードは、MASLST や特権をもった CLIST で作られるリスト上には出力される。しかし、MASLST リスト上のパスワードは、必要ならば除去される。
- (4) 上記の規則(2)および(3)を変更したり、先行のものを打ち消すために、6つのモードディレクティブが用いられる。これらのディレクティブは、カラム1がスペースで2 ~ 12カラムに指定する。
モードディレクティブは適用すべきディレクティブの前になければならない(直前でなくてもよい)。

IGNORE ERRS

エラー検出後もディレクティブの処理を続ける。下位のカタログ等を抹消中にエラーが起こっても、カタログの抹消を続けさせる。名前のエラーが発見されても、退避または復元を行うようにする。

NOTICE ERRS

先行の IGNORE ERRS ディレクティブの効力を打ち消す。

SYNTAX ONLY

全ディレクティブについて構文チェックのみを行わせる。ただし、LISTディレクティブについては処理を続行する。

USER PER PG

各利用者のカタログやファイルのリストを、MASLST リストの異なったページから開始させる。

SHOW PASSWD

ディレクティブリスト中にパスワードが現れるようにし、先行の HIDE PASSWD の効果を打ち消す。

HIDE PASSWD

MASLSTやCLIST リスト上にパスワードを印字することをやめ、先行の SHOW PASSWD の効果を反転する。

以下のモードディレクティブを使うには、ジョブ中に \$ PRIVIT 文が必要である。

TAKE SNAPS

全MME GEFSYEの前に、その呼び出し手順のスナップショットダンプを行わせる。

STOP SNAPS

先行の TAKE SNAPS ディレクティブの効果を打ち消す。

\$ FILSYS文のオプションDUMP は、ジョブの中に、\$ PRIVITY 文がなければ認められない。スナップショットとダンプのこの制約により、パスワードが無断で出力されるのを防いでいる。

利用者ディレクティブ

この章では、利用者のファイルおよびカタログのディレクティブについて説明する。

1. ファイルディレクティブ

1.1 形 式

ファイルの作成

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{FCREAT} \\ \text{FC} \\ \text{CF} \end{array} \right\} \text{修飾名, オプション}$$

必須項目

(1) 修飾ファイル名

オプション

(1) $\text{PASSWORD} / \left\{ \begin{array}{l} \text{パスワード} \\ \text{パスワード: 時刻 * 時刻, ...} \end{array} \right\} /$

指定がなければいものとみなす。

(2) パーミッション。指定がなければいものとみなす。

(3) このファイルが置かれる装置または装置のタイプ

$$\text{DEVICE} / \left\{ \begin{array}{l} \text{装 置 名} \\ \text{DKU410} \\ \text{DKU411} \\ \text{DKU450} \\ \text{BSS001} \end{array} \right\}$$

既定値はこのファイルの上位のカタログの内、すでに指定されている最下位のものに従う。なければ、利用可能なものが用いられる。ストラクチャドリムードバブルバック上のカタログの下位に属するファイルについては、装置を指定することはできない。全ファイルがそのバック上になければならないからである。

(4) ファイルのサイズ

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{BLOCKS} \\ \text{LLINKS} \\ \text{LINKS} \\ \text{SIZE} \end{array} \right\} / \text{初期値} \quad \left[\begin{array}{l} \left\{ \text{UNLIMITED} \right\} \\ \text{, 最大値} \end{array} \right] /$$

サイズ指定がなければ、初期値および最大値として1リンクがとられる。
UNLIMITEDを指定すれば、ファイルのサイズ拡張についてのチェックは受けない。但し、SMC上で指定した最大値の制限には従う。

(BLOCKS=LLINKS=320語, LINKS=SIZE=3840語)

(5) $\text{MODE} / \left\{ \begin{array}{l} \text{RAND} \\ \text{SEQ} \end{array} \right\} /$

既定値：IDSはRAND，その他はSEQ

(6) $\text{ACCESS} / \left\{ \begin{array}{l} \text{NORMAL} \\ \text{READ WHILE WRITEまたはRW} \\ \text{CONCURRENT} \\ \text{MONITOR} \end{array} \right\} /$

既定値：NORMAL

MONITOR が指定されたら、ABORT/ROLLBACK/
オプションを指定しなければならない。

(7) $\text{AUDIT} / \left\{ \begin{array}{l} \text{NONE} \\ \text{DENIED} \\ \text{ALL} \end{array} \right\} /$

既定値：NONE

(8) $\text{VERIFY} / \left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\} /$

既定値：NO

(9) $\text{ABORT} / \left\{ \begin{array}{l} \text{NONE} \\ \text{LOCK} \\ \text{ROLLBACK} \end{array} \right\} /$

既定値：通常はNONE。ACCESS/MONITOR/が指定してあれば
ROLLBACK。

(10) $\text{RDERR} / \left\{ \begin{array}{l} \text{NONE} \\ \text{JOURNAL} [, \text{DUP} [: \text{装置名またはタイプ}]] \\ \text{DUP} [: \text{装置名またはタイプ}] [, \text{JOURNAL}] \end{array} \right\} /$

既定値: NONE

装置名またはタイプは、上記オプション 3 と同じである。指定がなければ、ファイルが置かれている装置と異なる装置が選択される。

リムーバブルバック上のカタログに属するファイルについては、DUP は指定できない。

(11) $\text{INCRSAVE} / \left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\} /$

IDS ファイル、ストラクチャドリムーバブルバック上のカタログに從属するファイル、および初期値が 25 リンク以上のファイルについては、既定値として INCRSAVE/NO/ がとられる。その他のファイルの既定値は INCRSAVE/YES/ である。しかし、どのファイルについても、YES、NO のどちらを指定してもよい。ストラクチャドリムーバブルバック上のファイルについては、増分退避時に装てんされているときでも退避はできない。

(12) $\text{PAGE SIZE} / \text{ページ中の語数} /$

既定値: 320 語

最大サイズは 3840 語である。

備考(1) このディレクティブは、IDS ファイルには使用できない

(IDS ファイルについては、専用のディレクティブ後述一を用いる。ただし、オプションは共通)。また、磁気テープ、ノンストラクチャドバック上のファイルについても使用できない。

例(1) $\text{FCREAT CLASS21 / PROB1 INPUT, READ}$

PROB1 INPUT という名前のファイルを、CLASS21 という利用者の UMC の直下に作成する。ファイルのサイズは 1 リンクで、拡張は許されない。順アクセス、直接アクセスのいずれでも可。ファイルは、どの装置上に置かれてもよい。このファイルは、どの利用者でも読めるが、書き出し可能なのは作成者のみである。パスワードは不要。書き出しは同時には 1 ジョブのみ、

読み込みは複数個可能、保護機能は不要であるが、ファイルは増分退避が行われる。

- (2) CF CORPORATE\$SEPT25/CUSTOMER,
PASSWORD/NOW:0800*1200, THEN:1515*
1630/, READ/AKC, DFD, RLN/, WRITE/TSE/,
LLINKS/200,200/, MODE/RAND/,
INCRSAVE/NO/

CUSTOMERという名前のファイルを、利用者CORPORATEのUMCの直下に作成する。UMCは、パスワードSEPT25がついている。ファイルには、二つのパスワードをつける。一つは午前8時から12時まで有効でNOWというもの、他は午後3時15分から4時30分まで有効なTHEN。

これらの時間帯以外では、このファイルはアクセス不可。

READの特定パーミッションが三つの利用者に与えられ、WRITEが1利用者に与えられる。ファイルのサイズは、200Lリンクで拡張はできない。順アクセスは不可。ファイルは保護されず、増分退避も行われない。同時処理オプションは、既定値のNORMALがとられる。

- (3) CF INSTALL/SYSA/DETAIL, LINKS/3000/,
DEVICE/DKU411/, RDERR/DUP:DKU411/,
ABORT/ROLLBACK/, ACCESS/MONITOR/

ファイルDETAILを、カタログSYSAの下に作る。カタログSYSAは、利用者INSTALLのUMCにつながっている。ファイルは、DKU411ディスク上に3000リンク割り当てる。

ファイルは二重化し、第2ファイルもDKU411上に作る。ビフォアズによって不完全更新から保護する。FMSが制御する同時処理を許す(MONITOR)。増分退避は行わない(25リンクより大きいから)。パーミッション指定がないので、作成者のみが読み書きできる。パスワードはない。

FMOD

1.2

形 式

ファイルの変更

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{FMOD} \\ \text{FM} \\ \text{MF} \end{array} \right\} \text{ 修飾名, オプション, 追加オプション}$$

必須項目

- (1) 修飾ファイル名 (パスワードがあれば指定)
- (2) 少なくとも一つのオプション

オプション

- (1) $\text{PASSWORD} / \left\{ \begin{array}{l} \text{パスワード} \\ \text{パスワード:時刻*時刻, ...} \end{array} \right\} /$

PASSWORDのみ (スラッシュで囲んだパスワードをつけない)

の指定は、既存のパスワードを抹消するものである。

- (2) パーミッション
- (3) ファイルの最大サイズ

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{BLOCKS} \\ \text{LLINKS} \\ \text{LINKS} \\ \text{SIZE} \end{array} \right\} / \left\{ \begin{array}{l} \text{UNLIMITED} \\ \text{最 大 値} \end{array} \right\} /$$

(BLOCKS=LLINKS=320 語, LINKS=SIZE=3840 語)

LLINKSやLINKSの最大値は、ファイルの現在のサイズ以上でなければならない。

- (4) $\text{MODE} / \left\{ \begin{array}{l} \text{RAND} \\ \text{SEQ} \end{array} \right\} /$
- (5) $\text{ACCESS} / \left\{ \begin{array}{l} \text{NORMAL} \\ \text{READ WHILE WRITE または RWW} \\ \text{CONCURRENT} \\ \text{NONITOR} \end{array} \right\} /$

ファイルがビジー中のときは変更できない。

MONITORが指定されていれば、ABORT/ROLLBACK/ が強制的に取られ、それ以外のときはABORT オプションは無視される。

(6)
$$\text{AUDIT} / \left\{ \begin{array}{c} \text{NONE} \\ \text{DENIED} \\ \text{ALL} \end{array} \right\} /$$

(7)
$$\text{VERIFY} / \left\{ \begin{array}{c} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\} /$$

ファイルがビジーのときは変更できない。

(8)
$$\text{ABORT} / \left\{ \begin{array}{c} \text{NONE} \\ \text{LOCK} \\ \text{ROLLBACK} \end{array} \right\} /$$

ファイルがビジーのときは変更できない。

(9)
$$\text{RDERR} / \left\{ \begin{array}{c} \text{NONE} \\ \text{JOURNAL} [, \text{DUP} [: \text{装置名またはタイプ}]] \\ \text{DUP} [: \text{装置名またはタイプ}] [, \text{JOURNAL}] \end{array} \right\} /$$

ファイルがビジーのときは変更できない。

装置名やタイプは、ファイル作成ディレクティブのオプション3と同様、指定がなければ、ファイルがある装置とは別の装置が選択される。

DUP装置は、ファイル変更で変えることはできない。ストラクチャドリムーバブルバック上のカタログに従属するファイルに対しては、DUPは指定不可。

(10)
$$\text{INCRSAVE} / \left\{ \begin{array}{c} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\} /$$

(11) PAGESIZE / ページの語数 /

(12) NEWNAM / パスワードのない非修飾名 /

新しいファイル名を指定する。

(13) 既存のパーミッションを除くためにDELETEを指定する。

$$\text{DELETE} / \left\{ \begin{array}{c} [\text{GEN}'\text{L} ,] \text{利用者名} , \dots , \text{利用者名} \\ \text{利用者名} , \dots , \text{利用者名} [, \text{GEN}'\text{L}] \end{array} \right\} /$$

GEN'Lは、すべての一般パーミッションを除く。利用者名は、その利用者のすべての特定パーミッションを除去する。

(14) RESET / $\left\{ \begin{array}{l} \text{BUSY[, ABORT]} \\ \text{ABORT[, BUSY]} \end{array} \right\} /$

ファイル記述中のビジーまたはアボートインジケータを、リセットする。ビジーインジケータをリセットすると、ファイルは空でない (non-null) にセットされる。\$ PRIVITY文が必要である。

例1) FMOD CLASS21 / PROB1 INPUT, SIZE / 3 /

利用者CLASS21のUMCの直下にカタログ化されたファイルPROB1 INPUTの最大サイズを3リンクにする。

(2) FM CORPORATE\$SEPT25 / CUSTOMER\$NOW, PASSWORD, NEWNAM / RELATIONS / , DELETE / AKC, CFD, RLN, TSE / , INCRSAVE / YES /

利用者CORPORATEのUMCの下にカタログ化されているファイルCUSTOMERの保護機能を取り消す。すなわち、このファイルのパスワードを除去し、特定パーミッションを抹消する。ファイル名をRELATIONSに変える。増分回避を行わせるようにする。

(3) MF INSTALL / SYSA / DETAIL, LINKS / 3210 / , ACCESS / NORMAL /

利用者INSTALLのUMC下のカタログSYSAに從属するファイルDETAILに対し最大サイズを指定する。

FCREAT / IDS /

1.3

形式

ファイルの作成
(IDSファイル)

$\left\{ \begin{array}{l} \text{FCREAT} \\ \text{FC} \\ \text{CF} \end{array} \right\} / \text{IDS} / \text{修飾名, IDS仕様, オプション}$

必須項目

(1) 修飾ファイル名

(2) IDS仕様

(I) BASESIZE/データベース中のページ総数/

(II) RNG/このサブファイルの第1ページの番号,

このサブファイルの最後のページ番号/

オプション

ファイル作成ディレクティブの他に以下のものが指定できる。

(1) LINESPERPAGE/ページ中の最大レコード数/

既定値: 63

(2) INVENTORY/ $\left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{インベントリを開始するページ占有率} \end{array} \right\} /$

既定値: 75

(3) MULTIUSER/ $\left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\} /$

既定値: NO

MULTI-USERと書いてもよい。

(4) JISコードファイルの場合JISと指定する。

(5) AREA/番号/

0~63の範囲で指定する。

備考(1) ABORT指定がなければ、既定値ABORT/LOCK/がとられる。

(2) IDSのためのページサイズは、JISオプションを指定しない場合640語を超えてはならない。

ページサイズを640語以上指定する場合、PAGESIZEオプションより前にJISオプションを指定しなければならない。この場合、最大960語まで指定できる。

(3) ディレクティブと修飾ファイル名の間には、少なくとも一つのブランクが必要。

(4) IDSファイル作成時の注意

IDSファイルでは、原則としてACCESS/MONITOR/およびABORT/ROLLBACK/機能は使用できない

(IDSとFMS間での干渉に対する考慮は、はらわれていない。もし、IDS ファイルに対して上記機能を使用するときには、次の制約を守らなければならない。

(a) IDS サービスプログラム QUTI, QUTL, QUTD の対象となるファイルには、上記保護オプションの指定があってはならない。

従って、保護オプション付きのファイルをこれらサービスプログラムで使用するときには、FMODEレクティブで保護オプションを一時的に取り除かなければならない。

(b) INVENTORYを指定したIDS ファイルについては、上記保護オプションは指定できない。

例(1) FCREAT/IDS/ SALTRIVER/ONE, SIZE/12000, 12000/, BASESIZE/235000/, RNG/1,144000/, INVENTORY/NO/, ACCESS/MONITOR/

利用者SALTRIVERのUMC 下に、ONE という名前のIDS ファイルを作成する。ファイルサイズは12,000 リンクで拡張はできない。これは、ページサイズ320語のページ235,000 からなるIDSファイルの一つのサブファイルである。このサブファイルのページは、1～144,000 まで番号がつく。インベントリページは作らない。同時更新、不完全更新に対するFMS の保護機能が、それぞれ指定されている。

(2) FC/IDS/ SALTRIVER/TWO, LLINKS/91093, 91093/, BASESIZE/235000/, RNG/14401, 23500/, INVENTORY/50/

利用者SALTRIVERのUMC 下にもう一つのIDS サブファイルTOW が作られる。ファイルサイズは、残りの91000 ページ(ページサイズは1Lリンク)で、このサブファイル用に指定されたインベントリページ用として93Lリンクが追加される。同時更新はできない。

FMOD

1.4

形 式

ファイルの変更
(IDSファイル)

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{FMOD} \\ \text{FM} \\ \text{MF} \end{array} \right\} \text{修飾名, オプション, 追加オプション}$$

必須項目

- (1) 修飾ファイル名 (パスワード)
- (2) 少なくとも一つのオプション

オプション

- (1) IDSオプション
 - (a) BASESIZE / データベース中のページ総数 /
 - (b) RNG / このサブファイルの第1ページの番号,
このサブファイルの最後のページ番号 /
 - (c) LINESPERPAGE / ページ中の最大レコード数 /
 - (d) INVENTORY / $\left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{インベントリを開始するページ占有率} \end{array} \right\} /$
 - (e) MULTIUSER / $\left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\} /$
- (2) ファイル変更ディレクティブのオプション参照

例(1) FMOD SALTRIVER/ONE,LLINKS/144147/
INVENTORY/75/

IDSサブファイルONEを、インベントリ可能なように変更する。

ファイルの最大サイズを、インベントリページが作れるように増加する。

(2) FMOD SALTRIVER/TWO,ACCESS/MONITOR/

SALTRIVERのUMCの下のファイルTWOに対し、同時変更を許し、FMSの制御を行うよう変更する。このディレ

クティブでは、変更を受けるファイルがIDSファイルのものであることを示す情報は何もないことに注意されたい。

(3) FMODE SALTRIVER/TWO, RESET/BUSY/

ファイルTWOを、ビジーでない状態にセット。

FCREAT

1.5

形式

ファイルの作成
(ノンストラクチャド
メディア)

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{FCREAT} \\ \text{FC} \\ \text{CF} \end{array} \right\} \text{ 修飾名, 装置, オプション}$$

必須項目

- (1) 修飾ファイル名
- (2) 装置：次の内のいずれか
 - (a) 磁気テープ

$$\text{DEVICE/} \left\{ \begin{array}{l} \text{TAPE} \\ \text{TAPE7} \\ \text{TAPE9} \\ \text{TAPE27} \\ \text{TAPE29} \end{array} \right\}, \text{ リールシリアル番号 } \left[\begin{array}{l} \text{DEN0} \\ \text{DENSTD} \\ \text{DEN2} \\ \text{DEN5} \\ \text{DEN8} \\ \text{DEN16} \end{array} \right] / ,$$

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{FILEINFO} \\ \text{VOLUME} \end{array} \right\} / \text{リール名} /$$

既定値：DEN0（リールに従う）

- (b) ノンストラクチャドバック

$$\text{DEVICE/} \left\{ \begin{array}{l} \text{410PK} \\ \text{411PK} \\ \text{450PK} \end{array} \right\}, \text{ バックシリアル番号 } / ,$$

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{FILEINFO} \\ \text{VOLUME} \end{array} \right\} / \text{バック名} /$$

オプション

- (1) $\text{PASSWORD} / \left\{ \begin{array}{l} \text{パスワード} \\ \text{パスワード:時刻*時刻, ...} \end{array} \right\} /$

指定がなければならないものとみなす

- (2) パーミッション

指定がなければならないものとみなす。

- (3) $\text{MODE} / \left\{ \begin{array}{l} \text{SEQ} \\ \text{RAND} \end{array} \right\} /$

既定値: SEQ

備考(1) ファイルは、磁気テープまたはノンストラクチャドディスクバック上に既に存在するファイルでなければならない。

(2) リール/バックシリアル番号は、1～5文字(英数字)から成り、装てんのためにリールやバックを識別するものである。

(3) リール/バック名は、1～12文字(英数字、ピリオド、ハイホン)から成り、リールやバックを識別するのに使える。

(4) リールやバックのシリアル番号、名前、密度は、ファイルの割り当て要求勝に与えられる。

例(1) $\text{FCREAT K.KIMURA/EXPER-1, DEVICE/411PK, P0338/, VOLUME/EXPERIMENTS/}$

利用者K.KIMURAのUMCの下にEXPER-1という名前で、ノンストラクチャドバック上のファイルをカタログ化するバックタイプ、シリアル番号、名前が指定されている。

(2) $\text{FCREAT TOKYO/PAY, DEVICE/TAPE9,13172, DEN16/, VOLUME/TOKYO-PAY/}$

利用者がTOKYOのUMCの下にPAYという名前で、磁気テープファイルをカタログ化する。リールタイプ、シリアル番号、密度、名前が指定されている。

FMOD

1.6

形 式

ファイルの変更
(ノンストラクチャド
メディア)

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{FMOD} \\ \text{FM} \\ \text{MF} \end{array} \right\} \text{修飾名, オプション, 追加オプション}$$

必須項目

- (1) 修飾ファイル名
- (2) 少なくとも一つのオプション

オプション

- (1) $\text{PASSWORD} / \left\{ \begin{array}{l} \text{パスワード} \\ \text{パスワード:時刻*時刻, ...} \end{array} \right\} /$

PASSWORDのみの指定(スラッシュで囲んだパスワードをつけない)
は、既存のパスワードを抹消するものである。

- (2) パーミッション

- (3) $\text{MODE} / \left\{ \begin{array}{l} \text{SEQ} \\ \text{RAND} \end{array} \right\} /$

- (4) NEWNAM / パスワードのない非修飾名/
新しいファイル名を指定する。

- (5) DELETE: 既存のパーミッションを抹消する。

$$\text{DELETE} / \left\{ \begin{array}{l} [\text{GEN'L},] \text{利用者名, ... , 利用者名} \\ \text{利用者名, ... , 利用者名} [\text{, GEN'L}] \end{array} \right\} /$$

GEN'L は、すべての一般パーミッションを除去する。利用者名は、
その利用者のすべての特定パーミッションを除去する。

備考(1) ファイルは、磁気テープまたはノンストラクチャドバック
上に既に存在しているファイルである。

例(1) FM K.KIMURA/EXPR-1,R/T.HAYASHI/

このファイルに対するREADパーミッションを、T.HAYA
SHI に与える。ノンストラクチャドメディア上のファイ

ルは、ボリュームシリアル番号を知っていれば、ファイルではなく単にボリュームを要求することにより、誰でもアクセスできることに注意されたい。

(2) FM TOKYO/PAY, NEWNAM/ACCT3/
PASSWORD/PAY/

ファイル名をACCT3に変更し、ファイルにパスワードを付ける。

FPURGE FRELES

1.7 形 式

ファイルの抹消

{	FPURGE	}	<u>修飾名</u>
	FP		
	PF		
{	FRELES	}	<u>修飾名</u>
	FR		
	RF		

必須項目

(1) 抹消すべきファイルの修飾ファイル名

オプション

なし

- 備考(1) ファイルが、ストラクチャドリムールバック上のものならば、そのバックは装てんされなければならない。
- (2) ディレクティブがFPURGE ならば、現在このファイルに割り当てられているスペースがゼロクリアされ、解放される。
- (3) ディレクティブがFRELES ならば、現在このファイルに割り当てられているスペースは、そのままの状態で解放される。
- (4) 磁気テープやノンストラクチャドバック上のファイルについては、スペースはクリアも解放もされない。

- (5) ファイルがビジーならば、ビジーがとけるまで抹消は延ばされる。しかし、カタログ中のファイル記述は抹消されるので、名前による参照はできなくなる。利用者の使用中のスペース量は、そのファイルのサイズだけ減らされる。ただし、スペースが実際に解放されるのは、ビジーでなくなったときである。

例(1) FR CLASS21/PROB1 INPUT

PROB1 INPUT のファイル記述および CLASS21 中のエントリ（このファイルのためのカタログエントリ）が抹消され、このファイルに割り当てられていたスペースがそのまま解放される。

(2) FP CORPORATE\$SEPT25/CUSTOMER\$NOW

CUSTOMERのファイル記述および CORPORATE中のエントリ（このファイルのカタログエントリ）が抹消され、このファイルに割り当てられていたスペースがゼロクリアされ、解放される。

(3) FP K.KIMURA/EXPER-1

EXPER-1 のファイル記述とカタログが抹消される。ファイルがノンストラクチャドメディア上のものなので、スペースはゼロクリアも、解放もされない。

CCREAT

2. カタログディレクティブ

2.1 形 式

カタログの作成 $\left\{ \begin{array}{l} \text{CCREAT} \\ \text{CC} \end{array} \right\} \text{修飾名, オプション}$

必須項目

(1) 修飾カタログ名

オプション

(1) $\text{PASSWORD} / \left\{ \begin{array}{l} \text{パスワード} \\ \text{パスワード:時刻*時刻, ...} \end{array} \right\} /$

指定がなければいものとみなす。

(2) パーミッション

(3) 装置, 次のどちらかを指定

(a) このカタログを格納する装置, 下位のすべてのカタログやファイルは, この装置上に格納される(ストラクチャドリムバブルバック)。

$\text{DEVICE} / \left\{ \begin{array}{l} 410\text{PK} \\ 411\text{PK} \\ 450\text{PK} \end{array} \right\} , \text{バックシリアル番号} /$

(b) 下位ファイル(このカタログや下位のカタログではない)を格納する装置の既定値(下位のファイル作成や変更時に指定がなければこの値が用いられる)を指定(フィクストマスストレージ)。

$\text{DEVICE} / \left\{ \begin{array}{l} \text{装 置 名} \\ \text{DKU410} \\ \text{DKU411} \\ \text{DKU450} \\ \text{BSS001} \end{array} \right\} /$

備考(1) 装置名はスタートアップで各装置につけた3文字の名前

(2) 利用者マスタカタログ(UMC)を作成するとき, カタ

ログ名は、このカタログが登録される利用者名でなければならない。

- (3) ストラクチャドリムーバブルバック上にカタログを作成するときは、バックが装てんされているなら、その利用者のカタログがあるフィクストマスストレージ上に、このカタログへの指標を作り、このバック上にカタログを作成する。バックが装てんされていないければ、指標だけが作られる。従って、バックを装てんしないことによって、バック上に既にカタログがあれば、このシステムと他のシステムのバックと結合を行うことができる。

装てんされていないリムーバブルストラクチャドバックに対してカタログ作成を行う場合、パスワードもパーミッションも指定できない。これらが、カタログへの指標中には含まれないからである。（指定しても登録されない）。

バックが装てんされていない場合、カタログ作成ディレクティブで実際に作られるのは、カタログへの指標のみである。

- (4) ストラクチャドリムーバブル上のカタログに従属するいかなるカタログレベルに対しても、DEVICE オプションは使えない。

例(1) CCREAT CORPORATE, PASSWORD/SEPT25/
DEVICE/411RK, P3715/

利用者名CORPORATEの下で、UMC がストラクチャドリムーバブルバック上に作成される。このバックのタイプとシリアル番号が指定されている。UMCには、パスワードSEPT25がつけられる。

(2) CC XLNT/FAST, READ, WRITE/NSGD, AEWC/
DEVICE/DKU411

利用者名XLNTのUMC下に、FAST という名でカタログを作る。

一般パーミッションREAD, および二つの利用者に対する特定パーミッションWRITE が指定されている。DKU411は

その指定がないときこのカタログの下位に作られるファイルを置くべき装置の既定値である。

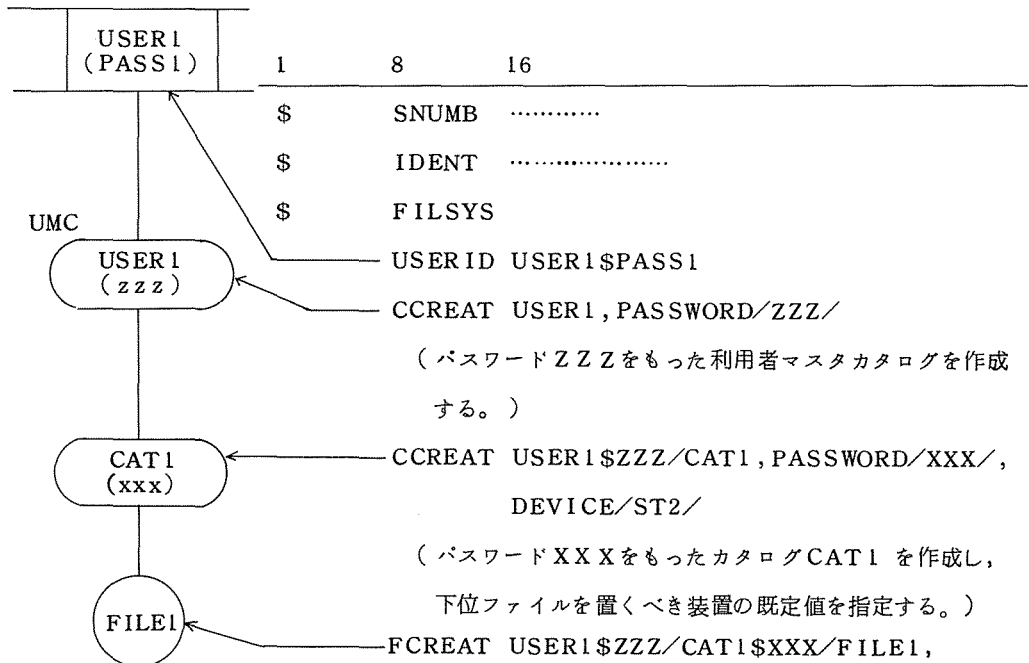
- (3) CC K.KIMURA/RMVB�,DEVICE/411PK,
P3715/, READ,WRITE

K.KIMURAのUMCの下にカタログを作る。名前はRMVB�でストラクチャドリムーバブルバック上に作る。バックのタイプとシリアル番号が指定されている。一般パーミッションが指定されている。

指定されたバックが装てんされているとき、K.KIMURAのUMC上にRMVB�に対する指標がバックシリアル番号を用いて作られ、カタログRMVB�自身がそのバック上に作成される(このバック上にはCRPACK ディレクティブを使って、K.KIMURAを登録しておかなければならない)。

バックが装てんされていないければ、指標のみが作られる(カタログ抹消ディレクティブの例2を参照されたい)。

(4) カタログ/ファイル作成



READ,WRITE/USER2/,SIZE/5,10/

(一般パーミッションREAD, 特定パーミッションWRITE,
およびファイルサイズの指定をもったファイルFILE1
を作成する。)

LIST USER1\$ZZZ

(利用者マスタカタログUSER1以下のカタログやファイ
ル記述についての情報がプリントされる。)

\$ ENDJOB

CMOD

2. 2

カタログの変更

形 式

$\left\{ \begin{array}{l} \text{CMOD} \\ \text{CM} \\ \text{MC} \end{array} \right\} \text{修飾名, オプション, 追加オプション}$

必須項目

- (1) 修飾カタログ名(パスワードがあればそれも指定)
- (2) 少なくとも一つのオプション

オプション

- (1) $\text{PASSWORD} / \left\{ \begin{array}{l} \text{パスワード} \\ \text{パスワード:時刻*時刻, ...} \end{array} \right\} /$

PASSWORD のみの指定(スラッシュで囲んだパスワードをつけ
ない)は, 既存パスワードの除去を意味する。

- (2) パーミッション
- (3) 装置: 下位ファイルを置くべき装置の既定値

$\text{DEVICE} / \left\{ \begin{array}{l} \text{装 置 名} \\ \text{DKU410} \\ \text{DKU411} \\ \text{DKU450} \\ \text{BSS001} \end{array} \right\} /$

- (4) NEWNAM / パスワードのない非修飾名/

新しいカタログ名を指定する。

(5) DELETE : 既存パーミッションの除去

DELETE / { [GEN' L ,] 利用者名 , . . . , 利用者名
[利用者名 , . . . , 利用者名 [, GEN' L]] } /

GEN' L はすべての一般パーミッションの除去, 利用者名は, その利用者のすべての特定パーミッションの除去を指定するもの。

備考(1) 装置名は, スタートアップで各装置につけた 3 文字の名前

(2) カタログがストラクチャドリムバブルパック上にあるときは, ジョブ開始に先だってそのパックが装てんされていないなければならない。

\$ FILSYSアクティビティ中に \$ nnnPK 文が含まれていないと, オペレータに対して装てんメッセージが出されない。

(3) UMCの名前は変更できない。

例(1) CMOD CORPORATE, PASSMORD

CORPORATEのUMC からパスワードを除去する。

(2) CM XLNT/FAST, DEVICE/DP3/

XLNTのUMCの下のカatalogFAST中にある装置の既定値を, 装置名DP 3の装置に変更する。

(3) MC K.KIMURA/RMVBL, DELETE/GEN' L/

カタログRMVBL 中の一般パーミッションを, すべて除去する。

CPURGE CRELES

2. 3

形 式

カタログの抹消

{ CPURGE
CP
PC } 修飾名

$\left\{ \begin{array}{l} \text{CRELES} \\ \text{CR} \\ \text{RC} \end{array} \right\}$	修飾名
---	-----

必須項目

(1) 抹消すべきカタログの修飾名

オプション

なし

- 備考(1) 一つのカタログを抹消すれば、それに従属しているファイルやカタログも抹消される。しかし、下位のカタログやファイルがストラクチャドリムバブルバック上にあるときは、そのバックが装てんされているか否かにかかわらず、それらを抹消するにはそのバックの最高位のカタログを抹消する必要がある。
- (2) 指定のカタログがストラクチャドリムバブルバック上にある場合は、そのバックは装てんしておかなければならない。
- (3) ディレクティブがCPURGEのときは、下位のファイルに割り当てられていたスペースはゼロクリアされ解放される。
- (4) ディレクティブがCRELESのときは、下位のファイルに割り当てられていたスペースはそのままの状態解放される。
- (5) 下位のファイルが、磁気テープやノンストラクチャドバック上にあるときは、スペースはゼロクリアも解放されない。
- (6) 抹消すべき下位のファイルがビジーのときは、ビジーでなくなるまで抹消は遅らされる。しかし、ファイル記述に対する指標は抹消されるので、そのファイルを名前で参照することはもはやできなくなる。
- (7) このディレクティブがカタログ作成者や特権ジョブから出されたものであれば、PURGE パーミッションが認められ

るか否かにかかわらず下位のファイルは抹消される。その他の場合は、下位のファイルの抹消は、各ファイルのPURGE パーミッションに従う。

- (8) 下位のファイルがカタログを抹消中にエラーが起こったときは、それ以外の下位のファイルやカタログは抹消されるが、ここで指定されたカタログおよびエラーの起こったカタログやファイルまでの間にあるカタログは抹消されない。エラーがパーミッションによる拒否でないなら、モードディレクティブ IGNORE ERR によってカタログを抹消することができる。モードディレクティブは、下位のファイルに割り当てられたスペースを解放することはない。

例(1) CR INSTALL/SYSA

カタログSYSAと、それが従属しているカタログINSTALL中のエントリ、およびSYSAの下位のファイルDETAIのファイル記述が抹消される。そして、ファイルDETAIに割り当てられていたスペース（および二重化された第2ファイルのスペース）が、そのまま解放される。（ファイルDETAIについては、ファイル作成ディレクティブの例3を参照）。

(2) CR K.KIMURA

利用者K.KIMURAのUMC、その下位のファイル記述、その間にあるカタログが抹消され、フィクストマスストレージ上にあるファイルに割り当てられていたスペースがゼロクリアされ解放される。しかし、UMCに従属するカタログRMVBL（カタログ作成ディレクティブの例3参照）は抹消されず、またこのカタログの下位にあるファイルのスペースも解放されない。当然、UMCが抹消されれば、それが再度（多分他のシステム上で）作られない限り、カタログRMVBLやその下位のファイルは参照できなくなる。参照するためのUMCや指標は、最初にカタログ作成ディレクテ

ィブを用いて作成することができる。ただし、このとき
RMVBL のあるバックは装てんしないでおく（カタログ
RMVBL に対する UMC 内の指標だけを作れば良いから）。

CLIST LIST

2. 4 形 式

カタログや
ファイルのリスト $\left\{ \begin{array}{l} \text{CLIST} \\ \text{LIST} \end{array} \right\} \underline{\text{修飾名}}, \underline{\text{オプション}}$

必須項目

- (1) リストすべきカタログやファイルの修飾名

オプション

- (1) $\text{LISTOPT} / \left\{ \begin{array}{l} \text{ALL} \\ \text{ONLY} \\ \text{BUSY} \end{array} \right\} /$

既定値は ALL である。ALL の場合、指定されたカタログに従属する
ALL の場合、指定されたカタログに従属するすべてのカタログやファ
イルがリストされる。

ONLY が指定された場合は、そのカタログの直下のカタログやファ
イルのみがリストされる。ファイルを指定した場合は、そのファイルのみが
リストされる。

BUSY を指定すれば、ビジーファイルだけがリストされる。

- (2) $\text{EXTENTS} / \left\{ \begin{array}{l} \text{NORM} \\ \text{ALL} \\ \text{NONE} \end{array} \right\} /$

既定値は NORM である。

NONE のときは、ファイルのエクステントはリストされない。

ALL のときは、すべてのファイルのエクステントがリストされる。

- (3) $\text{DEVICE} / \left\{ \begin{array}{l} \text{装置名, } \dots \\ \text{バックタイプ, バックシリアル番号} \end{array} \right\} /$

備考(1) 指定したカタログやファイルが、ストラクチャドリムーバブルバック上にあるなら、そのバックは装てんしておかなければならない。

指定されたカタログが、ストラクチャドリムーバブルバック上のカタログやファイルをその下位にもっているなら、バックが装てんされているか否かにかかわらず、それらのカタログやファイルは参照されるだけで、その詳細や、さらにその下位にあるカタログやファイルについての情報はリストされない。

例(1) LIST SALTRIVER

利用者SALTRIVERのUMC、およびこの利用者のすべてのファイル記述やカタログがリストされる。ファイルについてはファイル記述がリストされるのであって、ファイル自身の内容が出力されるのではないことに注意されたい。

(2) LIST INSTALL,LISTOPT/ONLY/

利用者INSTALLのUMC、およびその直下のカタログやファイル記述についての情報がプリントされる。例えば、ファイルINSTALL/SYSA/DETAILのファイル記述は、このファイルがUMCに直属していないので、リストされない。

(3) LIST K.KIMURA/RMVBL

ストラクチャドリムーバブルバック上のカタログRMVBL、およびその下位のすべてのカタログやファイル記述がリストされる。RMVBLのあるバックは、装てんしておかなければならない。

(4) LIST K.KIMURA

利用者K.KIMURAのUMC、およびフィックストマスストーリーレジ上にある下位のファイル記述やカタログについての情報が出力される。

下位のカタログRMVBLについては、その指標のみが出力され、その他の情報は出力されない。

- (5) LIST K.KIMURA/EXPER-1,LISTOPT/ALL/
 ファイルEXPER-1のファイル記述についての情報が出力される。ファイルがノンストラクチャドマスストレージ上にあっても、そのファイル記述はフィックスドマスストレージ上にある。LISTOPT/ALL/は、指定されたのがファイルなので無視される。

SLOCK ALOCK

2.5 形 式

カタログやファイルのロック

SLOCK 修飾カタログまたはファイル名, $\begin{Bmatrix} \text{ON} \\ \text{OFF} \end{Bmatrix}$

ALOCK 修飾ファイル名, $\begin{Bmatrix} \text{ON} \\ \text{OFF} \end{Bmatrix}$

必須項目

- (1) SLOCK については、修飾カタログ名、または修飾ファイル名。

ALOCK については、修飾ファイル名

- (2) 次の二つのオプション内の一つ

(a) ON : ロックをセットし、割り当てを制限する。

OFF: ロックをリセットし、割り当て制限を取り除く。

オプション

なし

備考(1) SLOCK (保護ロック)は、ファイルまたはカタログの下位のファイルの割り当てを、LOCKパーミッションをもっている利用者、またはこのファイルやカタログの作成者に限定する。

(2) ALOCK (アポートロック)は、LOCK パーミッションをもつ利用者が、セット/リセットできる。

(3) SLOCKは、LOCKパーミッションをもつ利用者が、セッ

ト／リセットできる。

(4) アポートロックは、RECOVERYパーミッションをもつ利用者がセット／リセットできる。

(5) アポートロックは、このディレクティブ以外によってもセット／リセットできる。

(a) IDSファイル、またはABORT／LOCK／指定の行われているファイルに書き出しがあったが、そのジョブが、ジョブ自身のエラーまたはシステム障害により正常に終了しなかったとき、アポートロックがセットされる。

ABORT／ROLLBACK／として指定された不完全更新の保護が失敗したときもアポートロックがセットされる。またRECOVERYパーミッションをもつ利用者が、ジョブ内でMME GEFSYEを出すことによりセットできる。

(b) RECOVERYパーミッションをもつ利用者のジョブでMME GEFSYEを出すことにより、アポートロックをリセットできる。ファイル変更ディレクティブでRESET／ABORT／オプションを指定してもリセットできる。

(6) 保護ロックは、SLOCK ディレクティブか、LOCK パーミッションをもつ利用者のジョブでMME GEFSYEを用いる場合のみセット／リセットが可能である。

例(1) SLOCK CORPORATE\$SEPT25, ON

CORPORATEのUMC に保護ロックがセットされる。これにより、CORPORATEの名をもつ利用者が、LOCK パーミッションをもつ利用者以外の全利用者は、このUMCの下位のファイルにアクセスできなくなる。

(2) ALOCK SALTRIVER／TWO, OFF

利用者SALTRIVERのUMC に属するIDSファイルTWOに対して、アポートロックがリセットされ、アクセス可能になる（IDSファイル作成ディレクティブの例2参照）。

USERID

2.6

形式

利用者の識別

USERID 利用者名\$ログオンパスワード

必須項目

- (1) 利用者名とログオンパスワード

オプション

なし

備考(1) USERID ディレクティブは、二つ以上の利用者のファイルやカタログを参照するとき必要である。単一利用者の下にカタログ化されているファイルやカタログを参照するときは、利用者名は、USERID ディレクティブではなく \$ USERID 文で指定してもよい。

- (2) \$ USERID 文で指定した名前以外の利用者の下にカタログ化されているファイルやカタログを参照するときは、その前に USERID ディレクティブを指定しなければならない。
二つ以上の USERID ディレクティブが指定されると、最後のものが有効になる。従って、異なった利用者のファイル等に交互にアクセスする場合は、それぞれに USERID ディレクティブを指定し直す必要がある。

- (3) システムマスタカタログあるいはバックマスタカタログの作成、変更、抹消、リスト、ディレクティブについては、複数利用者のカタログが参照されるが、USERID は不要である。個々のファイルやカタログを参照するときのみ（特権ジョブであっても）USERID ディレクティブが必要となる。

ると、CPOSディレクティブは取り消される。

例(1) Cosp SWEETWATER/POWER\$GEN4

FCREAT SUBSTATION

CCREAT ACCOUNT

FCREAT ACCOUNT/PROPERTY

FPURGE WELL\$DEEP6

は、次のものと等価である。

FCREAT SWEETWATER/POWER\$GEN4/SUBSTATION

CCREAT SWEETWATER/POWER\$GEN4/ACCOUNT

FCREAT SWEETWATER/POWER\$GEN4/ACCOUNT/
PROPERTY

FPURGE SWEETWATER/POWER\$GEN4/WELL\$DEEP6

(2) 上の例において、CRELディレクティブをFPURGEの直前
におけば、抹消されるものの名前は修飾されなくなる。また、新
しく

CPOS SWEETWATER/IRRIGATION\$WETU

を、FPURGEの直前におけば、FPURGEのファイル名は、
次のようになる。

SWEETWATER/IRRIGATION\$WETU/WELL\$DEEP6

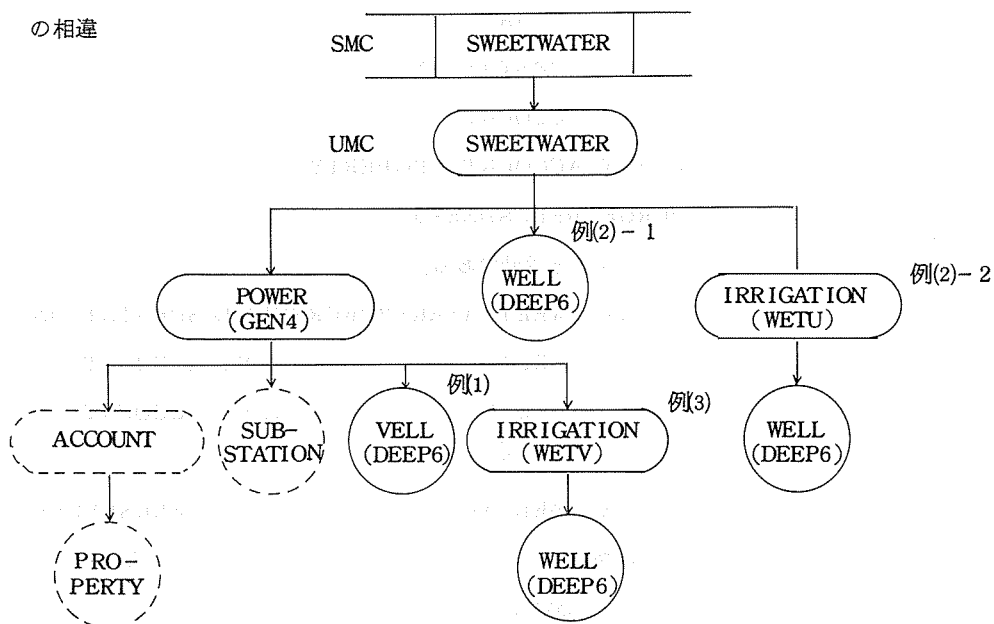
(3) 上の例において、CADD IRRIGATION\$WETUディレ
クティブをFPURGEディレクティブの直前に置けば、FPUR-
GEのファイル名は次のようになる。

SWEETWATER/POWER\$GEN4/IRRIGATION\$WETU/
WELL\$DEEP6

図 - 1

CPOS, CREL, CADD

の相違



• CPOS SWEETWATER/POWER\$GEN4

例(1) なし

例(2)-1 CREL (前のCPOSを消す)

例(2)-2 CPOS SWEETWATER/IRRIGATION\$WETU
(新しいCPOSに置き換える)

例(3) CADD IRRIGATION\$WETU
(前のCPOSに新たにカタログ修飾を追加する)

• FPURGE WELL\$DEEP6

前記例(1)ー例(3)を図示すると図-1のようになる。

それぞれの違いを比較されたい。

付録3. ACOSのファイル用語集(第3回までのもの)

	用 語	項 目 番 号		用 語	項 目 番 号
ア	R.C.W	Ⅱ-Ⅰ) ①	タ	直 接 編 成	Ⅱ-Ⅰ) ②
	A.F.T	Ⅰ-4)		テンボラリイ・ファイル	Ⅱ-2)
	S*	Ⅱ-3)		デ ー タ ・ フ ァ イ ル	Ⅱ-Ⅰ) ③
	S.C	Ⅰ-Ⅰ) ③		T.S.E.	Ⅰ-4)
	S.M.C	Ⅰ-Ⅰ) ①		ナ ニ ュ ー フ ァ イ ル	Ⅱ-2) ①
	S Y**	Ⅰ-4)		ハ バ ー ミ ツ シ ョ ン	Ⅰ-3) ② Ⅰ-4)
	F R C	Ⅱ-Ⅰ) ①		パ ス ワ ー ド	Ⅰ-3) ①
	L.B.C	Ⅲ-Ⅰ) ①		B.C.D. コ ー ド	Ⅰ-3)
	L リンク, リンク	Ⅰ-3)		B.C.W.	Ⅱ-Ⅰ) ①
	オールドファイル	Ⅱ-2) ①		B*	Ⅱ-3)
カ	カレントファイル	Ⅱ-2) ①		フ ァ イ ル 記 述	Ⅰ-Ⅰ) ④
	クイック・アクセス・ファイル	Ⅰ-Ⅰ) ④ Ⅲ-Ⅰ) ①		フ ァ イ ル ・ コ ー ド	Ⅱ-3)
	コレクタファイル	Ⅱ-2) ①		フ ァ イ ル 編 成	Ⅱ-Ⅰ)
	コース・インデックス	Ⅱ-Ⅰ) ③		フ ァ イ ン イ ン デ ッ ク ス	Ⅱ-Ⅰ) ③
	サ 索 引 順 編 成	Ⅲ-Ⅰ) ③		ブ ロ ッ ク 制 御 語	Ⅱ-Ⅰ) ①
サ	識 別 子	Ⅰ-2) ① Ⅰ-4)	ヤ	ベ ー ジ サ イ ズ	Ⅱ-Ⅰ) ③
	システム・ファイル	Ⅱ-3)		ボ イ ン タ	Ⅱ-Ⅰ) ③
	C . R . B . S .	Ⅲ-Ⅰ) ①		U.S.T	Ⅰ-4)
	修 飾 名	Ⅰ-2) ②		U.M.C	Ⅰ-Ⅰ) ②
	J.C.L.	Ⅲ-Ⅰ) ②		ラ ベ ル	Ⅱ-Ⅰ) ①
	J.I.S. コ ー ド	Ⅰ-3)		レコーディングモード	Ⅱ-Ⅰ) ①
	順 編 成	Ⅱ-Ⅰ) ①		レ コ ー ド 制 御 語	Ⅱ-Ⅰ) ①
	* S R C	Ⅱ-2) ①			